

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名 一般国道54号 <small>みとや</small> 三刀屋 <small>みとや</small> 拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中国地方整備局
起終点 自：島根県雲南市三刀屋町三刀屋 至：島根県雲南市木次町里方	延長 4.1km	
事業概要 一般国道54号は、広島市を起点に三次市を經由し、松江市に至る総延長約170kmの主要幹線道路である。三刀屋拡幅は、雲南市三刀屋町周辺の円滑な交通と交通安全の確保を図るとともに周辺の開発計画に寄与することを目的とした延長4.1kmの道路整備事業である。 なお、当該道路は、平成20年度に実施したB/Cの点検結果を踏まえて、平成21年度事業の執行を見合わせ、再評価を行ったものである。		
H5年度事業化		H4年度都市計画決定
H10年度用地着手		H11年度工事着手
全体事業費	144億円	事業進捗率
50%		供用済延長
0.7km		
計画交通量 5,300～17,000台/日		
費用対効果分析結果 (3便益)	B/C (事業全体) 1.0 (残事業) 1.9 * 全体B/C=1.0、 残事業B/C=1.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 68 / 151億円 (事業費：64/146億円) (維持管理費：3.5/5.0億円)
		総便益 (残事業)/(事業全体) 131 / 155億円 (走行時間短縮便益 126/150億円) (走行経費減少便益：4.5/4.6億円) (交通事故減少便益：0.00/0.00億円)
		基準年 平成21年
感度分析の結果 残事業についての感度分析を実施		
交通量変動：B/C=2.1 (交通量+10%) B/C=1.7 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.8 (事業費+10%) B/C=2.1 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.9 (事業期間+20%) B/C=2.0 (事業期間-20%)		
事業の効果等		
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑なモビリティの確保（事業区間の渋滞損失時間の削減が見込まれる 【344千人時間/年→0千人時間/年 100%削減】） ・円滑なモビリティの確保（高速バス：46便/日、雲南市民バス：29便/日の利便性向上が見込まれる） ・円滑なモビリティの確保（三刀屋総合センター周辺から出雲空港までの所要時間短縮が見込まれる 【21分→18分（ピーク時）】） ・都市の再生（雲南市の市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり）【宅地化等による人口増加（対H10：1.6倍）】 ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市である松江市、出雲市から三刀屋総合センター周辺までの所要時間短縮が見込まれる 【松江市：37分→34分（ピーク時）、出雲市：30分→27分（ピーク時）】） ・安全で安心できるくらしの確保（三刀屋総合センター周辺から三次救急医療機関島根県立中央病院までの所要時間短縮が見込まれる【29分→26分（ピーク時）】） ・災害への備え（島根県緊急輸送道路ネットワーク計画（H9年3月策定）において第1次緊急輸送道路に位置づけられている） ・災害への備え（震災点検要対策箇所 里熊大橋が解消される） ・地球環境の保全（CO2排出量が約1,300t（約2%）削減【64.7千t/年→63.4千t/年】） ・生活環境の改善・保全（NOX排出量が約7.2t（約3%）削減【239.6t/年→232.4t/年】） ・生活環境の改善・保全（SPM排出量が約0.7t（約3%）削減【20.9t/年→20.2t/年】） ・他のプロジェクトとの関係（中国横断自動車道尾道松江線と一体的に整備する必要あり） ・他のプロジェクトとの関係（雲南市総合計画（2007-2014）、雲南市マスタープラン（H21.4）等との連携プログラムに位置づけられている） ・救急医療へのアクセス向上を考慮した効果（時間短縮約1分、約35人/年が便益享受【11億円※】） ・環境への影響を考慮した効果（約1,300t/年のCO2削減量の貨幣換算値【0.7億円※】） ・通行止めを考慮した効果（尾道松江線通行止め時の現道の混雑解消効果【0.7億円※】） ・自転車歩行者道の整備により、安全・安心で快適な歩行空間を確保。 【歩行者70人/日、自転車140台/日】 ・交通事故件数の削減（交通事故件数が約5%削減【18.1件/年→17.2件/年】） 		

※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

三刀屋拡幅は、歩行者等の交通安全確保、まちづくりの支援、地域経済の発展などが期待されており、雲南市長はもとより、商工会、工業団地振興会、農業協同組合、観光協会、森林組合、沿線住民による協議会など様々な団体から早期整備の要望を受けている。

事業評価監視委員会の意見：

- ・工法見直しによるコスト縮減と、交通量等に合わせた道路構造の見直しについては妥当である。
- ・三刀屋拡幅が地域から期待される役割として、これまでの3便益に限らない、幅広い視点からの事業効果の検討について、着目点は妥当である。
- ・事業者から事業の概要、検討内容等について説明を受け、審議した結果、「事業継続することが妥当」である。

県知事の意見の概要：

- ・国と県、市など関連自治体や自治会、地権者との合意と期待の下で事業が開始され、当該事業だけでなく関連する市の事業なども同時に行われている。
 - ・投資効果の早期発現や地元自治体のまちづくりの観点からも事業を継続すべき。
- (以上、島根県知事意見 平成21年4月7日)
- ・中国地方整備局事業評価監視委員会にて取りまとめられた意見について、異存はない。
- (以上、島根県知事意見 平成21年6月26日)

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

平成20年に雲南市役所三刀屋総合センター、雲南警察署が事業区間沿線に移転。
また、三刀屋拡幅沿線地域では、宅地化・商業地化の進展により、人口が増加。
さらに、平成21年4月に雲南市は、用途地域の都市計画変更を行い、三刀屋拡幅沿線は新たに商業系（近隣商業地域）の用途を指定し、商業集積地として拠点化を図る計画としている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成16年度末時点で0.7kmについて供用済。平成20年度末時点で、用地買収については50%が完了。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、残る区間についても早期供用を図るため事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

- ・里熊大橋工事の仮設工法の見直し（仮栈橋→瀬替え）【約5億円減少】。
- ・新たな交通量に基づく道路構造の見直し（一部区間4車線→2車線）【約8億円減少】。

対応方針

見直し継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

* 3便益に、費用便益分析マニュアルに規定のある便益の試算値を加え、費用で除した場合のB/Cの値